

草深たまご通信

草深の卵をご利用いただきましてありがとうございます。
5月早々に梅雨入りかと思われる天候でしたが、結局梅雨入りしませんでしたね。コロナ禍での制限付きの生活が続いていますが、季節は変わりなく巡って畑作業にも勤しんでいます。
日夜みんなの命と生活を守るために働いていらっしゃる皆さん、学舎を支援していただいているすべての皆さんの、ご健康を祈ります。

■ 鶏の入れ替えがありました



5月14日に2期鶏舎のニワトリの入れ替えがありました。4月に予定していましたが、国内での鳥インフルエンザの流行から業者も影響を受け、

1か月遅れで1割減の63羽での入荷になりました。6月1日現在、250羽の雌鶏を飼育しております。

孵化して250日ほどで草深にやってくる鶏は、初めは人を恐れて逃げますが、1か月もすると餌を求めて寄ってくるようになります。

● デントコーン今年も栽培始まりました

鶏の餌の一部になるデントコーンを、今年もにわとり農場で栽培します。

冬から春に土づくりを行い、5月に播種をします。メンバーも特性に合わせて、種まきも腰をかがめずに行えるような工夫をしながら、皆で作業しています。



(上)みんなで苦土石灰をまきます

↑ (左)畝の代わりに、紐を張ります。

(中)手作りの器具で種まきの穴をあけます ↑

(右)筒を使って立ったまま種を蒔きます →



社会福祉法人印旛福祉会

いんば学舎・草深 にわとり農場班

〒270-1337 千葉県印西市草深字怖録 484-3

TEL. 0476-48-6411 FAX. 0476-48-6400

<http://inba-g.or.jp/shisetsu02.html>

第13号 (不定期刊) 2021年6月1日発行



草深キャラクター「そうくん」

● 鶏舎から (写真は遊び場の草を食べる鶏ポリスブラウン)



冬は、県内で鳥インフルエンザが流行したことから、屋外での飼育を控えました。

その間に屋外遊び場に生えた草が青々と茂り、5月になって屋外に出してあげると、アッというまに、食べ尽くしました！

産卵数は順調で、3月、4月は再び産卵率が70%を超えました。鳥の入れ替えをしたため、若鶏たちの産卵がまだごく少ない状況ですが、これから期待できます。

にわとり農場では、デントコーンのほか、小松菜やチンゲンサイなど、鶏の緑餌にもなる葉物野菜を中心に栽培しています。

また、秋の共働作業日に花いっぱいになるようにと、花壇づくりも進めています。

楽しみが減っている昨今、元気が出るようにと、こいのぼりも揚げました。



▲いんば学舎・草深
ホームページ

